

# 岐阜県内における外来の淡水生および陸生のカメ類の発見記録 (2007~2018年)

## Records of Alien Freshwater Turtles and Tortoises Caught in Gifu Prefecture between 2007 and 2018

楠田哲士<sup>1,2</sup>・向井貴彦<sup>3</sup>・田上正隆<sup>4</sup>・田村ユカ<sup>5</sup>・矢部 隆<sup>6</sup>・説田健一

*Satoshi KUSUDA*<sup>1,2</sup>, *Takahiko MUKAI*<sup>3</sup>, *Masataka TAGAMI*<sup>4</sup>, *Yuka TAMURA*<sup>5</sup>,  
*Takashi YABE*<sup>6</sup>, *Ken-ichi SETSUDA*

<sup>1</sup> 岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室 <sup>2</sup> 岐阜大学応用生物科学部 応用動物科学コース 動物園生物学研究センター

<sup>3</sup> 岐阜大学地域科学部 <sup>4</sup> 世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ

<sup>5</sup> 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 <sup>6</sup> 愛知学泉大学現代マネジメント学部

---

**要旨** 2007~2018年に、岐阜県内では外来の淡水生カメ類(ミシシippアカミミガメ, カミツキガメ, ワニガメを除く)として、セイブニシキガメ, フトマユチズガメ, ミシシippニオイガメ, カプトニオイガメ, キイロドロガメの5種5個体, 陸生カメ類では、ケヅメリクガメ, ヨツユビリクガメ, ヘルマンリクガメ, ヒョウモンガメ, ホウシャガメの5種10個体が野外で発見されていた。

---

### はじめに

岐阜県内に生息する主なカメ類は、ニホンイシガメ *Mauremys japonica*, ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis*, クサガメ *M. reevesii*, ミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* である。これら4種以外のカメ類は、矢部(2014)および楠田(2014)の岐阜市内における広域調査では発見されていないが、これまでに岐阜県内では各地で様々な外来の淡水生および陸生のカメ類が発見され、捕獲あるいは保護されている。著者らへの引き取り依頼や岐阜大学の「ぎふ生物多様性情報収集ネットワーク」(<https://www1.gifu-u.ac.jp/~cbnedis/>)への情報提供、関係各所への聞き取り情報の他、Web上に残る新聞記事や各自治体の自然環境報告書などをもとに可能な限り拾い上げた。

今回の情報収集の結果、外来の淡水生カメ類(ミシシippアカミミガメを除く)として、カミツキガメ *Chelydra serpentina*, ワニガメ *Macrochelys temminckii*, セイブニシキガメ(以降の種の学名は以下の個別情報の中で記載)、フトマユチズガメ, ミシシippニオイガメ, カプトニオイガメ, キイロドロガメの7種, 陸生カメ類では、ケヅメリクガメ, ヨツユビリクガメ, ヘルマンリクガメ, ヒョウモンガメ, ホウシャガメの5種, 計12種が岐阜県内で発見されていた。カミツキガメとワニガメは他種に比べて捕獲数が多く、それぞれ外来生物法の特定外来生物, 動物愛護管理法の特定動物に

指定されており様々な問題があるため、本稿とは別に、楠田ら(2019)に報告する。本稿では、カミツキガメとワニガメを除く淡水生カメ類5種5個体(図1)と陸生カメ類5種10個体(図2)について、種ごとの概要と岐阜県内での発見状況を紹介する(表1)。

### 淡水生カメ類

#### セイブニシキガメ *Chrysemys picta bellii*

【分類】ヌマガメ科

【原産】アメリカ合衆国北西部から中部, カナダ南部

【背甲長】雄で最大18 cm, 雌で最大25 cm

【IUCN Red List】Least Concern (種ニシキガメとして)

【CITES】附属書未掲載

ニシキガメは、トウブニシキガメ *C. p. picta*, セイブニシキガメ *C. p. bellii*, セスジニシキガメ *C. p. dorsalis*, フチドリニシキガメ *C. p. marginata* の4亜種に分けられている。このうち特にトウブニシキガメとセイブニシキガメが古くから多く輸入され、近年は見かける機会は減ったものの現在も数千円から1万円弱と比較的安価に流通している。ミシシippアカミミガメの養殖個体が多く流通するようになるまでの、北米産の野生捕獲個体が輸出されていた1960年代までは、クーターガメ属や他のスライダー類と共に、複数種が「ミドリガメ」として流通していた(安川, 2008)。セイブニシキガメは、背甲は濃緑色で、縁甲板の裏や腹甲に濃いオレンジ色が入

表1 岐阜県内における外来の淡水生および陸生カメ類の発見記録（2007～2018年）

	捕獲年月日	種名	性別	背甲長	体重	捕獲場所
1	2007年7月12日	カブトニオイガメ	—	約12cm	—	多治見市
2	2009年4月26日	ヨツユビリクガメ	—	約12cm	—	多治見市
3	2010年9月14日	ケヅメリクガメ	雌	—	—	養老町西岩道（堤防上）
4	2011年5月10日	フトマユチズガメ	—	—	—	多治見市
5	2012年4月4日	ケヅメリクガメ（死体）	雄	46.2 cm*	17.1 kg*	岐阜市古市場東町田（新堀川）
6	2012年5月23日	ヘルマンリクガメ	—	—	—	多治見市
7	2012年8月16日	ヒョウモンガメ	—	約35 cm	—	各務原市内（路上）
8	2014年9月28日	セイブニシキガメ	雌	14.06 cm	480.8 g	海津市南濃町（山除川左岸）
9	2015年4月26日	ケヅメリクガメ	—	約45cm	—	岐阜市日野南（駐車場）
10	2016年5月6日	キイロドロガメ	—	10.5 cm	—	多治見市西坂町
11	2016年10月4日	ケヅメリクガメ	雄	34.0 cm*	6.7 kg*	岐阜市北一色
12	2017年7月21日	ヨツユビリクガメ	—	—	—	加茂郡白川町（大山白山神社）
13	2017年8月23日	ヨツユビリクガメ	雄	12 cm	—	岐阜市上材木町（駐車場）
14	2017年9月27日	ミシシッピニオイガメ	—	11 cm	—	多治見市山吹町（土岐川）
15	2018年11月11日	ホウシャガメ	雄	36 cm	8.4 kg	本巣市三橋（路上）

表内の「—」は、記録していない、もしくは記録が残っていないことを示す。\* 死後冷凍保管後の計測値。

この表は、ミシシッピアカミミガメ、クサガメ、カミツキガメ、ワニガメを除く。カミツキガメとワニガメは楠田ら(2019)に別途報告。

る美しいカメであり、飼育も容易ではあるものの、ミシシッピアカミミガメほどの人気や普及はないように思われる。

岐阜県では、2014年に海津市内でのカメ類の捕獲調査時に、多数のミシシッピアカミミガメに紛れて1個体が捕獲されている（図1-⑧）。他地域での発見事例は聞かれないが、それなりに流通している種でもあり、体サイズがミシシッピアカミミガメと同程度であることを考えると、多くのミシシッピアカミミガメに紛れて捕獲されながら、見逃されている可能性も考えられる。

### フトマユチズガメ *Gratemys ouachitensis*

【分類】ヌマガメ科

【原産】アメリカ合衆国中南部

【背甲長】雌12～26 cm, 雄9～16 cm（ウォシタチズガメ）

【IUCN Red List】Least Concern

【CITES】附属書Ⅲ（チズガメ属全種, アメリカ）

フトマユチズガメは、ウォシタチズガメ *G. o. ouachitensis* とサビンチズガメ *G. o. sabinensis* の2

亜種に分類されている。アメリカ合衆国中南部に分布するが、基亜種のウォシタチズガメの分布域がほとんどで、ごく限られた水系にのみサビンチズガメが生息する（Vogt, 2018）。雄の成体は背甲長が9～16 cm なのに対し、雌の成体は12～26 cm と性差が非常に大きい（Vogt, 2018）。

岐阜県内では2011年に多治見市内で捕獲されている（図1-④）。他都県では、チズガメ類としては、東京都の渋谷区、杉並区、練馬区、玉川上水（三鷹市～小金井市）、調布市でニセチズガメ（佐藤, 2008; 2015）、愛知県名古屋市中区でウォシタチズガメとキタククロブチズガメ（なごや生物多様性保全活動協議会, 2014）が発見または捕獲されている。

生態系被害防止外来種リストにおいて、チズガメ属3種（ミシシッピチズガメ *G. kohnii*, フトマユチズガメ（サビンチズガメを含む）、ニセチズガメ *G. pseudogeographica*）が定着予防外来種（その他の定着予防外来種）として掲載されている（環境省, 2018）。

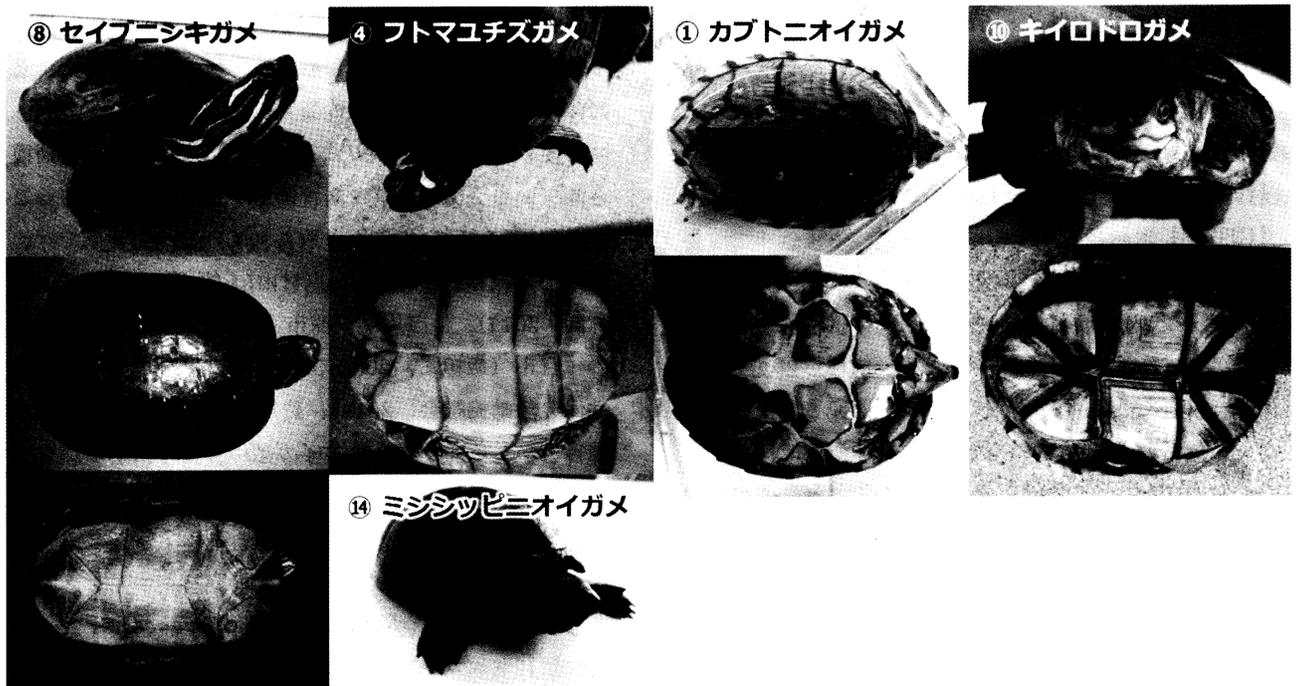


図1 岐阜県内で発見された外来の淡水生カメ類5種

(写真番号は表1内の通し番号に同じ。写真提供：⑧田村ユカ，①④⑩⑭山本真行氏)



図2 岐阜県内で発見された外来の陸生カメ類5種

(写真番号は表1内の通し番号に同じ。写真提供：②⑥土岐川観察館，③岐阜県庁，⑤⑪⑬⑮楠田哲士，⑦世界淡水魚園水族館，⑫荒井浩氏，⑨は写真無し)

### ミシシッピニオイガメ *Sternotherus odoratus*

【分類】ドロガメ科

【原産】カナダ南東部・アメリカ合衆国東部

【背甲長】8~14 cm

【IUCN Red List】Least Concern

【CITES】附属書未掲載

ミシシッピニオイガメは非常に小型のカメで、その幼体は背甲長 2 cm ほどしかない。2000 年代に入り急激に人気が高まり、ホームセンター等や一般種を扱うペットチェーン店でも 5000 円前後と安価に販売されている。ミシシッピアカミミガメに代わるカメの飼育入門種として一般的になりつつある。そのせいか近年野外での発見例も散見されるようになってきた。

岐阜県内では、2017 年に多治見市の上岐川で捕獲されている (図 1-⑭)。他都県では、東京都の練馬区、調布市、武蔵野市 (佐藤, 2015; 岩本・片岡, 2017)、神奈川県藤沢市 (天白ら, 2011)、愛知県の名古屋市 (野呂ら, 2018) と安城市 (日本自然保護協会, 2014)、滋賀県長浜市 (毎日新聞 2010 年 6 月 10 日付) のそれぞれの池で捕獲例がある。捕獲数は、複数年の調査で 1 個体から数個体であったが、多いところでは 1 年で 4~5 個体捕獲されている場所もある。東京都練馬区の石神井公園の池では 10 年間の継続調査で計 9 個体が捕獲され、このうち 5 個体は 2016 年に捕獲されている (岩本・片岡, 2017)。ミシシッピニオイガメは、日本でも場所によっては冬季に屋外での越冬が可能であることから、今後の定着の可能性は否定できない。

### カブトニオイガメ *Sternotherus carinatus*

【分類】ドロガメ科

【原産】アメリカ合衆国の中央南部

【背甲長】10~15 cm

【IUCN Red List】Least Concern

【CITES】附属書未掲載

カブトニオイガメ、ヒラタニオイガメ *S. depressus*、ヒメニオイガメ *S. minor*、ミシシッピニオイガメ *S. odoratus* の 4 種でニオイガメ属を構成する。ニオイガメ属の中では最大種であるが、幼体の背甲長は 2~3 cm ほどしかなく (Lindeman, 2008)、ミシシッピニオイガメと共にペットとして幼体の人気が高い。ホームセンター等やペットチェーン店でも 6000 円前後と比較的安価に販売されており、一般種になりつつある。しかし、カブトニオイガメは、温和なミシシッピニオイガメとは異なり攻撃的な性質を持つため、他種との同居飼育は避けた

方がよいとされる (安川, 2011; 大谷, 2018)。

ミシシッピニオイガメと同様、一般普及してきたことに伴うのか、近年野外での発見例も散見される。カブトニオイガメは、岐阜県では 2007 年に多治見市内で捕獲されている (図 1-①)。飼育個体が逃げたものであることが判明し、飼い主に引き取られている。他都県では、東京都の渋谷区と練馬区、東村山市 (佐藤, 2015; 岩本・片岡, 2017)、神奈川県三浦市 (天白ら, 2011)、愛知県の一宮市 (飯田ら, 2008)、名古屋市 (なごや生物多様性保全活動協議会, 2014)、豊川市 (愛知県, 2017) で捕獲例がある。カブトニオイガメは日本でも場所によっては冬季に屋外での越冬が可能であることから、今後の定着の可能性は否定できない。

### キイロドロガメ *Kinosternon flavescens*

【分類】ドロガメ科

【原産】アメリカ合衆国中南部~メキシコ東部

【背甲長】9~16 cm

【IUCN Red List】Least Concern

【CITES】附属書未掲載

キイロドロガメは、ドロガメ属の中では中型で、幅広く扁平な背甲をもつのが特徴である。本種は、以前は 3 亜種に分類されていたが、2001 年にそれぞれの亜種を種に昇格させるとした論文が発表された (Serb et al., 2001)。本種は 1980 年代頃から本格的に輸入されるようになったが、当時から輸入亜種のほとんどが基亜種であったこともあり (安川, 2010)、現在も和名はキイロドロガメのまま使われている。流通しているキイロドロガメのほとんどは野生捕獲個体であったが、原産地であるアメリカの一部の州やメキシコでは輸出あるいは採捕が規制されるようになったようで (安川, 2010; van Dijk, 2011)、近年は爬虫類専門店でも見かけることが少なくなった。このように、流通量はそれほど多いわけではなく、また安価な種でもない上、サイズも大きくはならないため、飼育放棄が起こることはよほど考えにくい。しかし、2016 年に岐阜県多治見市内で捕獲されている (図 1-⑩)。

ドロガメ属は、近縁のニオイガメ属と同様に小型種が多く、丈夫で飼いやすい。ドロガメ属ではミスジドロガメ *K. baurii* とトウブドロガメ *K. subrubrum* (亜種のペンシルベニアドロガメ *K. s. subrubrum* やミシシッピドロガメ *K. s. hippocrepis*) が中では比較的流通している。しかし、ミシシッピニオイガメやカブトニオイガメに比べれば格段に少なく、それほど安価でもないせいか、ド

ロガメ属の野外発見例は多くはない。岐阜県の事例以外には、トウブドロガメが愛知県豊川市で発見された例がある(愛知県, 2017)。

### 陸生カメ類

#### ヨツユビリクガメ (別名: ロシアリクガメ, ホルスフィールドリクガメ) *Testudo horsfieldii*

【分類】リクガメ科

【原産】中東

【背甲長】12～22 cm

【IUCN Red List】Vulnerable (絶滅危惧Ⅱ類)

【CITES】附属書Ⅱ

中国新疆ウイグル自治区からイランまで分布する小型のリクガメで、3～4 亜種に分けられるが、日本で流通しているものは最も分布域の広いアフガニスタンヨツユビリクガメ *T. h. horsfieldii* と考えられている(安川, 2007)。

1990年代のリクガメブームの時、本種の他、ギリシャリクガメ *T. graeca* やエジプトリクガメ *T. kleinmanni* などが多く輸入され、当時リクガメ類としては比較的安価な部類であった。ヨツユビリクガメとギリシャリクガメは、今でもリクガメ類では最も安価で、当時と変わらない値段かそれよりも安く流通している。ヨツユビリクガメは、丈夫であることや冬眠も可能なことから比較的飼育しやすい種とされるが、実際にはうまく飼育できていない例も多い。甲羅の変形がひどい個体や体と甲羅の成長バランスが悪い個体を見かけることが多い(図 2-⑫はそれである)。

岐阜県内では 2009 年に多治見市で 1 個体(図 2-②)、2017 年には加茂郡白川町(図 2-⑩)と岐阜市(図 2-⑬)で各 1 個体(向井ら, 2019)が発見されている。土に穴を掘る性質があるため、庭などで飼育していると穴を掘って脱走する可能性もある。

#### ヘルマンリクガメ *Testudo hermanni*

【分類】リクガメ科

【原産】ヨーロッパ中部・東部

【背甲長】12～23 cm

【IUCN Red List】Near Threatened (準絶滅危惧)

【CITES】附属書Ⅱ

ヘルマンリクガメは、スペインからイタリア、さらにトルコにかけての地中海沿いの国々に分布する。イタリア以西のものをニシヘルマンリクガメ *T. h. hermanni*、以東のものをヒガシヘルマンリクガメ *T. h. boettgeri* として 2 亜種に分けられているが(Bertolero et al., 2011),

このうち日本ではヒガシヘルマンリクガメの流通量が多い。ヘルマンリクガメはドイツやチェコ、ウクライナ等からの飼育下繁殖個体が輸入されているようである。リクガメ類の中では小型であること、安価であること、また頑健であり生息地の気候が日本と似て低温にも比較的強いことなどから、日本での飼育に向いている種といえる。リクガメのペット飼育入門種とされる。本種は生息地のほとんどで保護されており、流通するリクガメ類では、珍しくほぼ 100%が飼育下繁殖個体であるようだ(海老沼, 2014)。

岐阜県では 2012 年に多治見市内で保護されている(図 2-⑥)。

#### ケヅメリクガメ *Centrochelys (Geochelone) sulcata*

【分類】リクガメ科

【原産】アフリカ北部

【背甲長】50～80 cm

【IUCN Red List】Vulnerable (絶滅危惧Ⅱ類)

【CITES】附属書Ⅱ (野生採取の輸出割当ゼロ)

ケヅメリクガメは、サハラ砂漠の南側、セネガルからエチオピアにかけてアフリカ大陸を横断するように分布している。本種は、アフリカやアメリカからペット用に繁殖された幼体が安定して輸入され、リクガメ類の中では流通量が多い(安川, 2002)。環境変化にも比較的強いことから飼いやすく、リクガメ飼育の入門種とされるが、成長スピードが速く、非常に大型になるため飼育にはかなりの覚悟が必要である。背甲長 6 cm 程度の幼体が、早い場合 5 年で 50 cm にまで成長することもあり(川上, 2002)、最大で背甲長 83 cm、体重 104 kg との記録がある(安川, 2002)。ゾウガメ類に次いで大型になる種である。

岐阜県では、2010 年に養老町(図 2-③)、2012 年(図 2-⑤)、2015 年、2016 年(図 2-⑩)に岐阜市(楠田ら, 2017)でそれぞれ 1 個体が収容されている。いずれも、背甲は非常に綺麗に成長し、このサイズまで育っていることを考えれば、飼育者が飼い切れずに遺棄したとも考えにくく、飼育場の施錠忘れ等か、その力強さから自ら脱走したものと想像する(2015 年の個体は当日に所有者が現れている)。

#### ヒョウモンガメ *Stigmochelys (Geochelone) pardalis*

【分類】リクガメ科

【原産】 アフリカ南部から南東部

【背甲長】 40~70 cm

【IUCN Red List】 Least Concern

【CITES】 附属書 II

ヒョウモンガメは、ナミビア南部と南アフリカ共和国西部に分布するナミビアヒョウモンガメ *S. p. pardalis* とそれ以外の東部に分布するバブコックヒョウモンガメ *S. p. babcocki* の 2 亜種に分けられてきたが、この亜種分類については根拠に乏しいとされている (Bonin *et al.*, 2006)。本種は、アフリカ産のリクガメ類としてはメジャーで、日本にも野生捕獲個体や飼育下繁殖個体がペット用に多く輸入されてきた。しかし、ケヅメリクガメに次いで大型になる種で、最大で背甲長 75 cm、体重 48.64 kg の個体が確認されており (安川, 2002)、ケヅメリクガメ同様、飼育には覚悟が必要である。

岐阜県では、2012 年に各務原市内の路上で比較的大型の個体が発見されている (図 2-⑦)。

### ホウシャガメ (別名: マダガスカルホシガメ)

#### *Astrochelys radiata*

【分類】 リクガメ科

【原産】 マダガスカル共和国南部

【背甲長】 約 40 cm

【IUCN Red List】 Critically Endangered (絶滅危惧 I A 類)

【CITES】 附属書 I

ホウシャガメは、アフリカ大陸の東に位置するマダガスカル共和国の固有種で、マダガスカルのリクガメとしては最もよく知られ、世界で最も美しいリクガメとされる (Pedrono, 2008)。マダガスカルの中でも、南部のごく限られた地域に生息するが (Pedrono, 2008)、マダガスカルのさらに東に位置するマスカリン諸島 (モーリシャス領モーリシャス島、フランス領レユニオン島) に移入され定着している (安川, 2012)。

本種はワシントン条約附属書 I に掲載されていることから、学術研究目的による輸入しか原則認められていない。しかし、モーリシャス共和国に、ワシントン条約事務局により商業目的での飼育繁殖事業が認められた登録事業者があり、そこから日本にもペット用の正規輸入が行われている。国内に輸入されてからは、種の保存法に基づき国際希少野生動物種登録票の発行された個体しか譲渡し (無償有償や所有権に関わらず) を行うことはできない。日本での飼育下繁殖個体であっても、登録票の発行されていない個体の譲渡しはできない。最近では、正規輸入による登録個体が 1 個体 200~300 万円で購入

されている。

岐阜県内では、2018 年に本巣市内の路上で警察によってホウシャガメ 1 個体が拾得物として保護されているが (向井ら, 2019) (図 2-⑮)、その後、保管委託期間の 3 カ月を過ぎても所有者は現れていない。また、千葉市動物公園では 2011 年にホウシャガメ 2 個体が、2012 年にも 1 個体が、動物園に寄贈する旨が書かれた段ボール箱に入れられ、遺棄された例がある (千葉日報 2012 年 9 月 2 日付)。極めて高額かつ希少な種であるにも関わらず、所有者が現れなかったり、手放されたりするこれらの事例は、登録票がないことを容易に想像させるものである。

岐阜県で拾得された場所と同じ本巣市と岐阜県山県市では、2004~2005 年にホウシャガメの密輸と不正登録の容疑で 2 名の逮捕者が出ている (朝日新聞 2005 年 10 月 13 日付; 読売新聞 2006 年 5 月 10 日付)。当時、この 2 名の自宅から 200 個体近くホウシャガメが押収されている (福原, 2017)。これらの事件と今回の個体とを関連付ける証拠は何もないが、岐阜県内でのホウシャガメにまつわる事例として触れておく。

### おわりに

岐阜県内の在来のカメ類は、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、クサガメの 3 種のみ (クサガメを外来種とする説もある) である。外来種であるミシシッピアカミミガメ (とクサガメ) は岐阜県内の美濃地方を中心に多くの地域で定着しているが、これら以外の種は、現時点では各地で単発に発見されているだけで、定着可能性を示唆する証拠はない。したがって、すべてが個別のペットの遺棄または逸走の事例となるが、初期段階で着実に除去していくことが、今後の定着を阻止する唯一の方策である。陸生のカメ類でも、日本の気候環境と似た原産地に生息する種では、越冬し繁殖する可能性もある。陸生種がたとえ野外で繁殖したとしても捕獲は容易であり、生態系への影響は大きくはないと考えられるが、初期段階での確実な対応が求められる。

今回は個別事例を可能な範囲で拾い上げただけであり、おそらく一部の発見例に過ぎないと思われる。今後さらに情報収集精度を上げ、またこれから発見されるものも含め、次報へとつなげたい。本稿における情報漏れや今後の岐阜県内での発見時には、著者 (楠田) または「ぎふ生物多様性情報収集ネットワーク」までご一報いただきたい。

## 謝辞

本稿の作成にあたり、多治見市上岐川観察館（多治見市の情報）、岐阜市役所自然共生部自然環境課の吉村卓也氏（岐阜市の情報の一部）、名古屋市東山動物園の藤谷武史氏から情報提供をいただいた。また、荒井 浩 氏、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズの山本真行会長、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふからは写真を提供いただいた。ここに記して改めてお礼申し上げます。

## 引用文献

- 愛知県, 2017, 平成 28 年度愛知県外来種調査結果の概要 (資料 1), <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/gairaishu28-2.html> (2018 年 5 月 4 日).
- Bertolero A., Cheylan M., Hailey A., Livoreil B., Willemsen R.E., 2011, *Testudo hermanni* (Gmelin 1789) – Hermann's Tortoise. Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group (Rhodin A.G.J., Pritchard P.C.H., van Dijk P.P., Saumure R.A., Buhlmann K.A., Iverson J.B., Mittermeier R.A. Eds). *Chelonian Research Monographs* 5: 059.1-20.
- Bonin F., Devaux B., Dupré A., 2006, *Centrochelys (Geochelone) pardalis* (Bell, 1828). *Turtles of World*, The Johns Hopkins University Press, Baltimore, Maryland, 251-252.
- van Dijk P.P., 2011, *Kinosternon flavescens* (errata version published in 2016). The IUCN Red List of Threatened Species 2011: e.T163421A97380845. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2011-1.RLTS.T163421A5604699.en> (2018 年 12 月 31 日).
- 海老沼剛, 2014, リクガメ, 見て楽しめる爬虫類・両生類フォトガイドシリーズ, 誠文堂新光社, 東京, 70-73.
- 福原秀一郎, 2017, 警視庁生きものがかり, 講談社, 東京, 215p.
- 飯田晃弘・北野 忠・大仲知樹, 2008, 愛知県一宮市で採集された外来種カブトニオイガメ. 豊橋市自然史博物館研究報告 18 : 33-34.
- 岩本愛夢・片岡友美, 2017, 武蔵野台地におけるニオイガメ類の採取記録, 第 4 回淡水ガメ情報交換会講演要旨集, 認定 NPO 法人生態工房, 東京, 60-63.
- 環境省, 2018, 生態系被害防止外来種リスト (平成 30 年 8 月 1 日改訂), 日本の外来種対策 <http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html> (2018 年 12 月 25 日).
- 川上博司, 2002, ケヅメリクガメとヒョウモンガメの飼育管理と繁殖. クリーパー 11: 18-33, 48-49.
- 楠田哲士, 2014, 岐阜市のニホンイシガメの保全にむけた外来種防除・繁殖研究・保護増殖の取り組み (特集: 野生生物保護管理の最前線「外来種の侵入がもたらす在来カメ類存亡の危機」内). *Wildlife Forum* 18(2) : 10-11.
- 楠田哲士・足立 樹・前田佳紀, 2017, 岐阜市内の河川および民家敷地内でのケヅメリクガメの発見収容 2 例, 亀楽 14 : 20-21.
- 楠田哲士・矢部 隆・原口向美・野呂達哉・田上正隆・説田健一, 2019, 岐阜県内でのカミツキガメおよびワニガメ属の捕獲記録 (2003~2018 年). 岐阜県博物館調査研究報告 39 : 15-20.
- Lindeman P.V., 2008, *Sternotherus carinatus* Gray 1856 – razorback musk turtle, razor-backed musk turtle. Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group (Rhodin A.G.J., Pritchard P.C.H., van Dijk P.P., Saumure R.A., Buhlmann K.A., Iverson J.B. Eds). *Chelonian Research Monographs* 5: 012.1-6.
- 向井貴彦・古屋康則・楠田哲士, 2019, 市民等から提供された岐阜県の新たな外来種の侵入記録. 岐阜大学地域科学部研究報告 44 : 27-39.
- なごや生物多様性保全活動協議会, 2014, ミシシippia カミミガメ防除マニュアル-名古屋市内の活動を事例として-, 34p.
- 日本自然保護協会, 2014, 「自然しらべ 2013 日本のカメさがし!」報告書 (日本自然保護協会資料集 53), 日本自然保護協会, 東京, 36p.
- 野呂達哉・鶴飼 普・宇地原永吉・岡田健士朗・酒井正二郎, 2018, 名古屋市城外堀におけるアリゲーターガー *Atractosteus spatula* (Lacepède, 1803) の捕獲, なごやの生物多様性 5 : 65-73.
- 大谷 勉, 2018, ニオイガメ属, 世界のカメ類, 文一総合出版, 東京, 144-148.

- Pedrono M., 2008, Radiated tortoise, *The Tortoises and Turtles of Madagascar*, Natural History Publication (Borneo), Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 9-18.
- 佐藤方博, 2008, 玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査(2007年度財団法人とうきゅう環境浄化財団助成事業研究成果報告書), 財団法人とうきゅう環境浄化財団, 東京, 14p.
- 佐藤方博, 2015, 多摩川流域におけるカメ相の変遷(2013年度公益財団法人とうきゅう環境財団助成事業研究成果報告書), 公益財団法人とうきゅう環境財団, 東京, 22p.
- Serb J.M., Phillips C.A., Iverson J.B., 2001, Molecular phylogeny and biogeography of *Kinosternon flavescens* based on complete mitochondrial control region sequences. *Molecular Phylogenetics and Evolution* 18(1): 149-162.
- 天白牧夫・大澤啓志・勝野武彦, 2011, 神奈川県東部の2水域におけるカミツキガメの食性. 日本爬虫両棲類学会第50回記念大会.
- Vogt R.C., 2018, *Graptemys ouachitensis* Cagle 1953 – Ouachita Map Turtle Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group (Rhodin A.G.J., Iverson J.B., van Dijk P.P., Buhlmann K.A., Pritchard P.C.H., Mittermeier R.A. Eds). *Chelonian Research Monographs* 5(11): 103.1-13.
- 矢部 隆, 2014, 岐阜のカメの生息実態を調査, 岐阜の淡水生物保全 BOOK ぎふの淡水生物をまもる (増補改訂版), 岐阜大学動物繁殖学研究室, 岐阜市, 43-44.
- 安川雄一郎, 2002, ケツメリクガメとヒョウモンガメの分類と生活史. クリーパー11: 4-17, 44-45.
- 安川雄一郎, 2007, チチュウカイリクガメ総覧. エクストラ・クリーパー2: 26-27, 40-41, 50-51.
- 安川雄一郎, 2008, クーターガメ属, ニシキガメ属, アミメガメ属の分類と自然史(II). クリーパー44: 4-12, 18-51.
- 安川雄一郎, 2010, ドロガメ属の分類と自然史(第1回). クリーパー53: 18-55.
- 安川雄一郎, 2011, ニオイガメ属の分類と自然史. クリーパー57: 18-55.
- 安川雄一郎, 2012, 旧リクガメの分類と自然史2. クリーパー60: 12-15, 26-44.